

## 金沢医科大学氷見市民病院が新しくなりました



平成 23 年 9 月 1 日に金沢医科大学氷見市民病院の新病院がオープンしました。

氷見市は高齢化率が 30% を超えており、富山県内でも高齢化が進んでいる地域です。そのため、リハビリや在宅医療など様々な医療ニーズがあり、金沢医科大学氷見市民病院は、氷見市で唯一の公的病院として地域の医療を担っています。

新病院には、「回復期リハビリテーション病棟」や検診・ドックなどの予防医療を推進する「健康管理センター」などが設置されているほか、救急外来や血液浄化センター等も拡充されています。

また、医師の勤務環境にも配慮されており、研修医にはデスクを含む個別スペースが与えられます！



研修病院を選ぶ際には、研修プログラムや指導体制はもちろんですが、どんな環境で過ごすかも大切なポイントですよ。

富山県西部での臨床研修をお考えの方は、ぜひ一度見学に行かれることをおすすめします！

## 富山県内の臨床研修病院

病 院 名	所 在 地	初期 研修	後期 研修	T E L
黒部市民病院	黒部市 三日市 1108-1	○	○	0765-54-2211
富山県立中央病院	富山市 西長江 2-2-78	○	○	076-424-1531
富山市立富山市民病院	富山市 今泉北部町 2-1	○	○	076-422-1112
富山大学附属病院	富山市 杉谷 2630	○	○	076-434-2281
富山赤十字病院	富山市 牛島本町 2-1-58	○	—	076-433-2222
富山県済生会 富山病院	富山市 楠木 33-1	○	○	076-437-1111
高岡市民病院	高岡市 宝町 4-1	○	○	0766-23-0204
富山県済生会 高岡病院	高岡市 二塚 387-1	○	—	0766-21-0570
富山県厚生連 高岡病院	高岡市 永楽町 5-10	○	○	0766-21-3930
金沢医科大学 氷見市民病院	氷見市 鞍川 1130	○	○	0766-74-1900
市立砺波総合病院	砺波市 新富町 1-61	○	—	0763-32-3320
南砺市民病院	南砺市 井波 938	○	○	0763-82-1475

# 富山市・医師会急患センターが開設されました



皆さん「急患センター」という言葉を聞いたことはありますか。富山県には、軽症の患者さんを対象とする初期救急医療機関として、4つの医療圏ごとに急患センターがあります。

急患センターでは、夜間及び休日の診療を行っており、軽症の患者さんの治療に加えて重症患者さんを第2次救急医療機関(輪番制)の病院に引き継ぐという重要な役割を担っています。

このたび、「富山市救急医療センター」が「富山市・医師会急患センター」と名称を変えて、平成23年10月1日に富山市丸の内から富山市民病院のすぐ隣に移転しました。診療科目は内科・小児科・外科に新しく眼科・耳鼻科・皮膚科を追加し、6診療科となりました。夜間は毎日19時から翌日の2時まで、休日の昼間は9時から17時半まで診療しています。

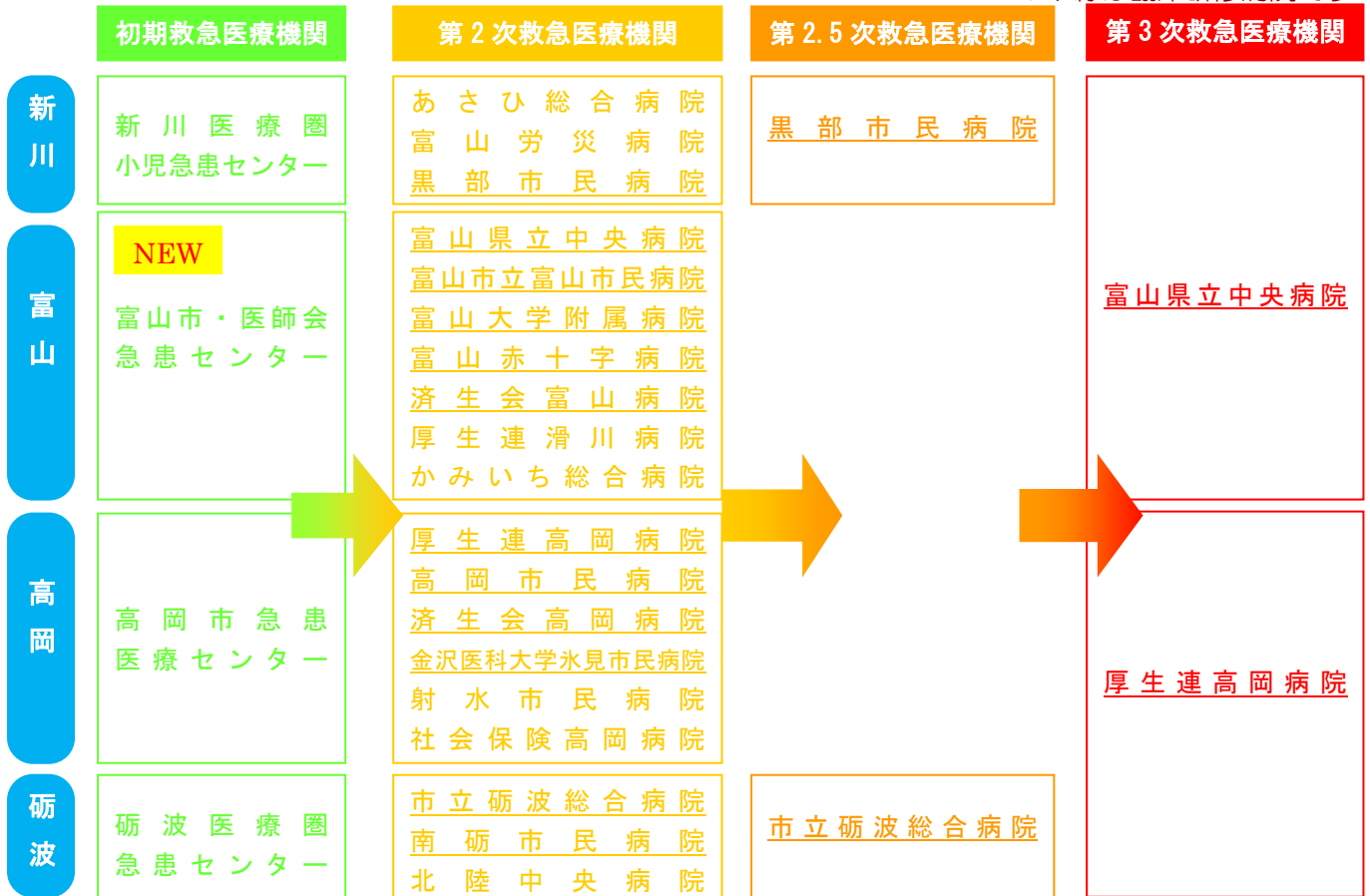
富山県では、救急医の疲弊を防ぎ、地域の救急医療を守るために、救急車の安易な利用を避けて急患センターを受診してもらおうと、住民の皆さんに呼び掛けています。

臨床研修病院を選ぶ際には、その地域の医療体制もチェックしてみてくださいね！



## 富山県の救急医療体制

※下線は臨床研修病院です





## 研修医からのメッセージ(研修プログラム)



氏名 笠原 美優  
たすきがけ研修医 1年生  
現在、産婦人科研修中  
出身大学 金沢大学



黒部市民病院での研修について特徴的な点からいくつか紹介したいと思います。

まず何と云っても、アメリカジョージア州の中央ジョージア医療センターとの国際交流です。年に3回指導医が来院しレクチャー等を行ってくれますし、基幹型の研修医は中央ジョージア医療センターでの研修が可能です。アメリカの医療制度を自身の目でみることができるだけでなく、英語のスキルアップや土日はニューヨーク、ラスベガス、ディズニーワールドなど旅行に出かけることもできます。

次に救急症例数が多く、多彩な症例に触れることができる点です。富山県新川地区では、この黒部市民病院が中核病院となっており、急性心筋梗塞やくも膜下出血など重症な症例から、骨折や切り傷などの外傷、虫垂炎など common な症例をファーストタッチで体験でき、大変勉強になります。また約20人という研修医は仲が良く、こういった救急症例の検討会を自分たちで開いて一緒に勉強したり、週末には飲み会にいたりしておりとても良い仲間恵まれていると思います。

他には、週に2回以上級医からのレクチャーが開かれたり、研修科目の変更が直前で可能であったり 各指導医の先生方やコメディカルスタッフがフレンドリーであることなど書きつくせないほど素晴らしい点があります。是非一度黒部市民病院に見学に来て下さい。

## 研修医からのメッセージ(休みの過ごし方)



氏名 竹村 朋子  
基幹型研修医 1年生  
現在、循環器内科研修中  
出身大学 富山大学



黒部市民病院では、夏休みは病院のお盆休みの日を含めて5日間の休みをとることができます。5日間連続とり、海外旅行に行く人もいれば、5日間をばらして、のんびり過ごす人もいます。今年の夏休みは、大学時代の友達に会いに名古屋に行きました。昨年度共に勉強し国試を乗り越えた仲間と会い、研修について情報を交換したり、仕事の悩みを打ち明けて共感したり、また大学時代の思い出話に花が咲いたり。もちろん、観光もしました。名古屋港水族館に名古屋城、味噌カツ丼にひつまぶし…。4月から働き始め、たくさん学び、悩みも出てきた頃であり、とても良いリフレッシュとなりました。同期のみんなからは、北海道、香港、ブラジル、カンボジアなど様々な所に旅行に行ったお土産話を聞きました。

夏休みの他に、有給休暇を年に20日間いただくことができます。その20日間のうちサバチカル休暇として5日間の連休をいただけます。今年度のサバチカル休暇についてはまだ決めていませんが、仲良くなった同期と遊びにいきたいなあと考え中です。

休みの取りやすい病院というのも、黒部市民病院の大きな魅力の1つ。働く時は働き、休む時は休む、というメリハリはとても大事なことだと思います。これからも仕事も休みも一生懸命過ごし、黒部市民病院の研修を楽しく有意義なものにしていきたいと思っています。



## 育児中の医師からのメッセージ



氏名 草開 妙

2年目研修医（現在、小児科研修中）

出身大学 宮崎大学

趣味等 ボート、水泳

富山県立中央病院の初期研修2年目です。医学部5年生の時に出産して、いま2歳半の娘がいます。夫も研修医なので、私たちが仕事の間、娘はおばあちゃんに預かってもらっています。家庭と仕事の両立は本当に難しいと思います。平日は娘が起きている時間に帰りますし、休日も普段一緒にいられない分、勉強をしている場合ではありません。勉強は勤務時間内か、娘が寝ている時間帯の夜か早朝にします。家のことと病院のことを、常に自分の中でバランスをとるようにしています。それでもやっぱり娘はさみしいだろうし、夫やおばあちゃんの理解がなければ絶対に成り立たない生活です。女医さんの出産や育児への対応は病院によって本当にばらばらですが、徐々に対応は進んでいます。今は勉強や仕事のことしか考えられない、という人でも、いつかひと段落ついたら結婚や出産について考えてみてください。仕事をしながらの子育ては辛いこともいっぱいですが、子どものかわいさはそれ以上です。

## 研修医のサポート体制

氏名 畑崎 喜芳 富山県立中央病院 小児科 職名:部長、臨床研修管理委員会委員長  
【指導環境】

＜診療科カンファレンス＞ 各診療科において、定期的にカンファレンスを開催しています。このカンファレンスでは、おもに研修医が症例呈示をおこない、指導医らが検討をくわえていきます。高度かつ多角的な意見を数多く得られるので、臨床能力の向上にはたいへん有意義です。

＜指導医講習＞ 本院の指導医の多くは、指導医講習を受講しています。指導体制・環境の整備、指導・評価方法の実例、研修医との関係構築などについて多様な知識・見解を得て、臨床能力にも人間性にもすぐれた医師を育成する指導の研究と実践に取り組んでいます。

＜研修医レクチャー＞ 降圧薬の使用法、腹部エコーの操作法、輸液の方法など、あらゆる診療で必要となる、検査、手技、治療について、専門医によるレクチャーを実施しています。おもな対象は1年次の研修医ですが、2年次の研修医も参加できます。

＜研修医会＞ 毎月、研修医会を開催しています。この研修医会は勉強会と意見交換会からなっており、勉強会では研修医による研修成果のプレゼンテーション、意見交換会では研修の問題点・改善点についての話し合いを行います。なお、年に3~4回、院長、副院長、事務局長などの参加があり、プログラム内容や指導環境・体制への意見を、直接、投げかけられます。





## 育児中の医師からのメッセージ



氏名 前川 一恵 平成10年医師免許取得  
放射線診断科（当院に在籍して現在4年目）  
出身大学 岐阜大学 息子2歳

市民病院在職中の妊娠・出産を経て、育児休業を取得し、息子が10ヶ月の時に育児短時間勤務制度を利用して復職しました。当初は1日4時間の勤務から始めさせていただき、朝は家事をしてから渋滞を逃れて出勤し、院内保育所に息子を預け、仕事へ。お昼は保育所で授乳をし、夕方も早めにお迎えに行くことができたため、スムーズに仕事を再開することができました。現在は部分休業制度を利用し、1日2時間の業務短縮を認めていただいているので、平日は1日6時間程度の勤務、休日は月2回程度の日直業務を行っています。息子とは昼間は一緒に過ごせない分、朝夕にはたくさん遊んであげるよう心がけていますが、これが私の仕事の息抜きにもなっています。

核家族の我が家では、これらの制度なくして、10ヶ月での職場復帰は出来なかつたらうと考えます。市民病院は、院長先生を始め、女性医師の復職に積極的で、同僚の先生方の温かい励ましと夫の理解にも助けられ、育児と家事の両立をすることができています。

育児は想像以上に楽しく、驚きました。出産、育児は、私たち医師のキャリアの妨げではなく、私たちの人生をより深くしてくれるものであり、必ずや仕事に反映されてくるものと思います。

たくさんの先生方に、周囲への感謝を忘れず、育児も頑張っていきたいと思います。

氏名 高木 麻里 平成10年医師免許取得  
麻酔科（当院に在籍して現在3年目）  
出身大学 富山医科薬科大学（現：富山大学） 娘3歳

医師になって10年目での出産で、経験が無駄にしたくなかつたので、仕事を辞めるという選択肢はなく、育児しながらも働ける病院ということで、現在の富山市民病院に配属されました。

当院では、育児短時間勤務制度のほか、院内保育所（3歳まで）では、曜日によって24時間保育もっており、子どもを持つ女性医療従事者が、自分の生活・育児スタイルに合わせて働ける環境にあります。

私は、子どもが2歳以降から、月1回程度ですが、子どもとともに（子どもは24時間保育）当直勤務をしています。とはいえ、職場や家族の協力がないと、フルタイムで仕事を続けるのは不可能です。また、子どもにも多少寂しい思いをさせていると思います。

仕事と家庭、バランス良く両立させていくことが今後の目標です。

## 研修医のサポート体制

### 【医師官舎】

市民病院西側に医師官舎を有しています。

研修医に限り、2DKが10,000円、3DKが12,000円の家賃となっています。

### 【院内保育所】

当院の院内保育所は定員48名、月曜・水曜は毎週、金曜は2週に1度、夜間保育（24時間保育）を実施しており、県内一の院内保育事業を実施していると自負しております。





## 育児中の医師からのメッセージ



氏名 吉田 真弓

富山大学附属病院 初期臨床研修医（2年目研修医）

出身大学 富山大学医学部医学科

2歳の子供の育児をしながら、現在放射線科で研修中

私は富山大学附属病院初期臨床研修医2年目の吉田です。国家試験後、息子が1歳2ヶ月になるまで子育てをしてから、初期臨床研修を始めました。1年のブランクを経て、身寄りのない土地での初めての社会人生活に入り、それまで子供とベッタリだった生活から一転しました。しかし、そんな様子を見て、初期臨床研修センターの先生方をはじめスタッフの方も気にかけて、相談に応じて頂き、無理のない研修をスタートすることができました。

当院には附属の保育施設もあり、病児保育も行ってくれています。保育所に入ってからはいまだに病気が知らずであった息子が次々と病気に罹るため、何度も病児保育を利用させてもらっています。

また、その度に各診療科の先生にご理解をいただいています。研修を開始するにあたっては、各診療科の先生とどのような研修にすれば無理なく行えるかと相談させていただいています。

これまで研修をしてきて、その時々で困難なことは多々起こりますが結局、研修をするもしないも自分次第だと思っています。研修する上で、大学では育児の理解も得られます。今まで大学側の理解と家族と協力のおかげで研修を続けることが出来ました。研修も終盤ですが、最後まで自分のペースを崩さずにできればと思っています。



## 研修医のサポート体制



**研修医室**：2010年11月新病棟（南病棟 1F）に新研修医室が完成しました。センター事務室と併設されデスクやロッカーも割り当てられ快適で充実した研修生活を支える施設となりました。学内 LAN を配備し電子カルテの利用、また登録することで個人の PC をインターネットにつなぐことも出来ます。仮眠室・シャワー室も完備しています。

**院内保育所**：職員の子育て支援として託児施設が開設しています。職員のお子様をお預かりし研修に専念できるバックアップ体制も充実しています。（毎週金曜は深夜1時までの夜間保育も行っています。）

**24時間オープン図書館**：図書館利用証があれば24時間利用出来ます。蔵書は医学書や専門書だけでなく一般誌や新聞、文献も多数揃えています。学内にない文献の取り寄せも可能です。



## 育児中の医師からのメッセージ



氏名 小川 加奈子

出身大学 富山医科薬科大学(現 富山大学)(H6年卒)

趣味等 スキー(最近はほとんどいけません)が・・・

皆さん、こんにちは。

私は現在 7 歳と 3 歳の二人の子供を育てながら仕事を続けて(させてもらって)います。

産休と育児休暇(上の子は 5 ヶ月、下の子は 6 ヶ月; 大学医局のサポートをもらいました)をとり、仕事に復帰しました。その時勤務していた病院では「育児にかかわる女性医師の短時間勤務制度」がありました。今年 4 月に富山赤十字病院の勤務になりましたが、外来診療と検査を担当し、病棟主治医、当直は免除という体制にされています。自分が当直をしない分、病棟主治医をはずしてもらおう分、ほかの先生に負担がかかることはまぎれもない事実で、とても申し訳なく思います。こんな私ですが、周りの先生方、病院のスタッフが「一緒にがんばりましょう」と受け入れて下さっています。検査が遅くなったりすると時間を気にしてもらったり、子どもの学校行事などで半日休みをもらったり、と多大な援助をもらっています。

でも、子供は急に熱を出したり、と予定外のことが多々発生します。私の場合は実家が近く、頼りっぱなしです。(夫(内科医)も気持ちの上では協力的ですが、じゃあ仕事から早く帰ってくるとか実働は不可能なのが現実。)本来は、祖父母の援助がなくても育児中の仕事が継続できるようにならなければ…ですが、自分自身の努力も、そして社会のシステム、認知度としても今後の課題だと思います。(富山市には病児保育施設が 3 か所あり(当院に隣接している乳児院もその一つ)、少ないとされながらも恵まれている方だと思います。)

さて、私が育児休暇をとり短時間勤務や当直免除・主治医免除などの体制をもらって仕事できているのも、女性医師の先輩方の努力があったからこそ…。今の私の試行錯誤も、次の世代の女性医師の選択肢を広げる小さな一つになればいいな、と思いながらもうしばらく頑張ってみます。

これから医師の人生を歩き始める皆さん。(男女問わず、という気持ちですが、実際のところまだ女性にとっての問題とされてますね。)人生いつどういう状況になるかなんて、いくらプランを思い描いてもその通りにはならないけれど、育児を経験することになったら、「仕事は辞めなきゃ」という選択肢だけでなく、自分と家族にあったバランスで仕事を続ける可能性を考えていきましょう。

## 研修医のサポート体制

富山赤十字病院では、研修医のみなさんが快適な研修生活を送れるよう全力でサポートします！！

- ★研修医室 研修医には専用デスクとインターネット環境を整備。  
隣室は若手先輩医師の医局なので、何でも気軽に相談できます。
- ★研修医宿舎 研修医宿舎は病院まで徒歩 10 分、富山駅まで徒歩 6 分。  
部屋はオートロックなので女性医師も安心。

研修医宿舎







## 育児を経験した医師からのメッセージ



氏名 久保 道也 富山県済生会富山病院  
脳卒中センター部長(脳神経外科部長)  
出身大学 富山医科薬科大学  
趣味 ジャズ

当院の脳卒中センターには5名の男性医師(ほかに女性医師2名)がいますが、子供の平均数は3.4人です。育児経験について他のメンバーにも聞いてみると、共通の答えが出てきました。「役割分担」です。通常、1歳未満の乳児を母親が優先的に、その間に上の子供たちを父親ができるだけ相手をするというのが多いようです。私にも男の子が2人いますが、すでに大学3年と高校3年になっています。でも、10年以上前に米国のミルウォーキーで過ごした数ヶ月間だけは、当時小学校1年生と4年生の彼らと多くの時間を共にし、子育てに関わり、家族の絆を深めることができました。日本人が周りに全くいない環境で、2人とも毎日の学校生活が驚きの連続だったと思いますし、本当によくやったと思います。日本の生活とは大きく異なり、夕方6時前に帰ってくる父親は、毎日学校でどんなことがあったかの聞き役でした。夕食後には、家族全員で辞書を片手に宿題をやったり(一番苦戦したのが聖書と米国の歴史でした)、提出作文を書いたり…。この経験は、2人に大きな影響を与え、日本に戻ってからの彼らが変わったことは言うまでもありません。背中を見せるだけが父親ではないことを学んだ期間でした。



## 当院における研修医のサポート体制

氏名 久保 道也 富山県済生会富山病院 職名:脳卒中センター部長(脳神経外科部長)

当院は、基幹型病院はもちろん、協力型病院としての「地域医療」枠としてもマンモス病院では経験できない多職種による「チーム医療」を十分に学んでいただけます。后者であっても、基幹型の場合と同様に部屋とデスク(LAN 接続可)が与えられ、24時間使用可能な図書室(医中誌接続可)も整備しています。社会人としての人間育成に力を入れる当院ならではの、接遇研修も予定しています。





## 女性医師相談窓口・巡回相談の取組み



富山県では、富山県医師会に委託して、女性医師の相談窓口を設置しています。

また、女性医師が勤務する病院を県医師会の担当医師が訪問し、院長や当該病院の女性医師等と勤務環境改善について話し合う「巡回相談」の取組みも行っています。

今回は、巡回相談などの女性医師支援の中心となっておられる、富山県医師会の山下理事にお話を伺いました。

### 富山県医師会理事 山下 泉 先生



#### プロフィール

職名：富山県医師会理事、富山県医師会男女共同参画委員会委員長

出身大学：杏林大学

育児経験：子供2人

好きなスポーツ：バレーボール

#### ★女性医師支援に取り組もうと思ったきっかけは何ですか？

県医師会の理事になったことですね。平成13年に就任しましたが、女性初の理事でした。就任直後に女性医師委員会（現：男女共同参画委員会）が発足し、当時から委員長を務めています。

#### ★「女性医師委員会」発足当時の周囲の反応はいかがでしたか？

当時は、女性医師からの反発がありました。「これまで男女関係なく頑張ってきたのに、“女性医師支援”によって今より差別される」という意見もありました。

また、男性医師も“女性医師支援”と言っても、何をしたいかわからない状態で消極的でしたね。

#### ★現在の環境は、どのように変化しましたか？

「女性医師委員会」が発足した当時と比べると、勤務環境はとて良くなりましたね。

まず、女性医師の比率が上がり、自分たちの勤務環境について意見を述べる女性医師が増えたことが大きな要因だと思います。従来は育休を取れなくても“仕方ない”という雰囲気でしたが、その状況を変えようとする女性医師が増えたことで、周りの医師たちにも刺激を与えています。

また、女性医師数が増えたことで、医師確保の観点から病院の経営陣が“女性医師支援”に積極的になっています。日本医師会が開催している「男女共同参画フォーラム」は今年で7回目になりますが、年々男性医師の参加者が増えて内容も濃くなっています。病院関係者が「どうやって女性医師に来てもらうか」を本気で考え始めたからでしょうね。

このような時代の流れを受けて、女性医師の働き方も変わってきました。以前はキャリアを形成するうえで、子供がマイナス要因になることもありましたが、子供が発熱した際に“こっそり”休むなど肩身の狭い思いをしている方も多かったのですが、現在では院長や診療科の部長などの理解もあり、育児休暇や子供の入学式・卒業式等に出るための休みを取る方も増えました。

#### ★今後の女性医師支援の目標は何ですか？

「頼られる県医師会の窓口」をつくることです。これまでも講演会の開催などに取り組んできましたが、女性医師を継続的にフォローしていける「力」のある窓口をつくりたいですね。就職先をコーディネートできるなど、「医師会窓口で相談すればなんとかなる」と思ってもらえるようにしたいと考えています。

山下先生ありがとうございました！

## 女性医師支援巡回相談の様子



7月から10月にかけて、県内の5病院において女性医師支援巡回相談を実施しました。話し合いでは、各病院の院長や診療部長などを交えて、女性医師が働き続けるために必要なサポート内容や他の病院についての情報共有を行いました。

「実家が近くにない場合は、院内保育所があると嬉しい」という意見や「育児支援を受けている医師とそれ以外の医師に不公平感が出ないように配慮するべきだ」という意見が出ました。また、「上司が子育ての大変さを理解してくれるので、休みを取りやすい」という声もありました。



高岡市民病院の様子

今回訪問した病院では、どの病院長も子育て等に理解があり、女性医師支援に積極的な印象を受けました。どんな分野においても、トップの姿勢は病院全体の雰囲気にも大きな影響を持っていますので、病院選択の際には院長の方針をチェックすることをお勧めします！

また、富山県では現在26病院が院内保育所を開設しています（臨床研修病院では7病院）。男性の方も、もちろん利用できますので、病院見学の際に見せてもらってはいかがでしょうか。

### 【巡回相談 実施病院】

富山赤十字病院

富山協立病院

高岡市民病院

真生会富山病院

市立砺波総合病院

## e-residentへの掲載

臨床研修医情報サイト「e-resident」に富山県のページを掲載しています！

知事からのメッセージや富山県が主催する最新イベントのご案内、各臨床研修病院の照会など、皆さんのお役に立つ情報をたくさん載せています。

病院長や研修医のインタビューを掲載しました！ぜひ、ご覧ください！

## メールマガジンの配信

富山県から、医学生の皆さんに「富山県医学生だより」というメールマガジンをお送りしています！

富山県が主催するイベントはもちろん、富山大学附属病院の専門医養成支援センターや卒後臨床研修センターからのお知らせなども配信中です。

最新情報をお届けしていますので、未登録の方は、ぜひご登録ください！！

メールマガジンをご希望の方は、下記までご連絡ください。

doctor-t@esp.pref.toyama.lg.